

平成29年12月22日

村上市議会議長 三田 敏秋 様

村上市議会総務文教常任委員会
委員長 鈴木 いせ子

行政視察報告書

下記のとおり、総務文教常任委員会の閉会中継続調査(行政視察)を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1 期 日 平成29年7月26日(水)～7月28日(金)
- 2 調査地 北海道千歳市・北海道札幌市・北海道登別市
- 3 参加委員氏名 鈴木いせ子委員長 鈴木好彦副委員長 小杉武仁委員 木村貞雄委員
稲葉久美子委員 大滝国吉委員 三田敏秋委員 佐藤重陽委員
河村幸雄委員 (計9名)
- 4 調査項目 (1) 防災学習交流センター「そなえーる」(北海道千歳市)
防災意識の高揚及び自主防災組織の拠点づくりについて
(2) どうぎんカーリングスタジアム
カーリング場(スポーツ施設)の整備について(北海道札幌市)
(3) 土曜授業推進事業について
土曜日の豊かな教育環境の構築について(北海道登別市)
- 5 調査目的 (1) 地域との連携、協働などソフト面からの拠点整備や防災教育、防災訓練などにおける伝達や連携などの組織力の強化方法などを調査することを目的とする。
(2) 全国で初めてのカーリング専用施設(スポーツ施設)整備の概要と各種大会の開催や、体験型の観光について調査することを目的とする。
(3) 土曜授業による地域の住民や行事との関わりからの成果や現状及び課題について調査することを目的とする。

6 調査概要

(1) 防災学習交流センター「そなえる」について

[対応者] 千歳市防災学習交流施設 副施設長 里村様

千歳市議会事務局 係長 青山様

[経過] 担当者から資料により、施設の概要や建設の経緯と目的、管理・運営状況等について説明を受けたのち、各委員からの質疑を行った。

その後、施設の各コーナーについて見学しながら説明を受け地震体験コーナー、煙避難体験コーナー等で一人ひとり実際に体験して調査を終えた。



(2) どうぎんカーリングスタジアムについて

[対応者] 札幌市スケート施設グループ指定管理者 一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団スタッフ

[経過] はじめに体験研修として実際にカーリングのリンク上にあがり、指導員の方からストーン（石）の投げ方、ブラシでの掃き方等の説明を受けたのち、競技のルールをお聞きし体験をさせていただいた。

その後、担当者から資料により、施設の概要や各種大会の開催状況、利用状況等について説明を受けた。のち、施設内を見学しながら説明を受けた。



(3) 土曜授業推進事業について（北海道登別市）

[対応者] 登別市議会事務局 上野主幹

〃 武田主査

学校教育グループ 主幹 1 主査 1 名

[経過] 担当者から、登別市の土曜授業の概要について説明を聞いた後、取組み内容、各学校の啓発活動、市教委の啓発、その効果や課題等について各委員からの質疑を行った。



7 各委員の所感

鈴木いせ子委員長

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

村上市にも大きな災害が数多く発生してきました。災害が起きた時、または起きることを想定した時に何をすべきかを勉強してきました。この千歳市防災学習交流センター「そなえーる」はこの答えを教えてくださいました。

1階は防災学習施設や屋内訓練室で構成され、2階は過去に国内で起きた大きな地震を体験したり、煙の中での避難行動が体験できるスペースとなっております。私たちは、日本で過去に起きた大きな地震の縦揺れ横揺れを体験しました。私は棒につかまったまま動けずまさに、「そなえーる」のことの大切さを学びました。千歳市は日本の北の守りで、自衛隊基地も多くあり、それらの補助金も多額でした。

村上市は自主防災組織を各集落に設置することと思います。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

村上市では「スケートパーク」の建設が計画されております。このまだ知名度が高くない競技で、この事業が成功するのだろうかとの思いから、「カーリング」で成功している「どうぎんカーリングスタジアム」への研修を行いました。まずはこの競技を体験するところ始めました。カーリングの石を滑らせる私の姿に委員の皆さんは、1年分をここで笑ったと言われました。その後、施設の説明を受けましたが、利用者数は年々増加しているとのことでした。その要因は高齢者から子どもまで全員で楽しめる競技になっているとのこと。

村上市も一部の人だけでなく、幅広い年齢層の方が楽しめる競技にするべきと感じてきました。オリンピックカーリング女子日本代表の小笠原 歩選手に会えたのは何よりでした。

【土曜授業推進事業（北海道登別市）】

議長がお出でになり村上市とのつながりのあったことに驚き、村上市について勉強してくださっていたのには感激しました。

はじめに「登別やってみませんか」この土曜授業は学力の向上ではなく、地域と共にあると話されました。だんだん、子ども達の頑張りがわかるようになり、全島、全国に比べても国語力はトップレベルに達してきた状況とのこと。

実施条件として

土曜日の午前中に実施。その分生徒の休日振替はなし。

教育課程に位置付けられた授業を行う。

開かれた学校づくりに留意し、地域と学校が連携できる授業を行う。

教職員の勤務の振替を確実にを行う。

村上市でもしこの事業をやるには、教員を退職された方のボランティアが最も大切になってくるだろうと思いました。

鈴木好彦副委員長

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

市レベルでの単一目的の施設としては、その内容・規模に「何故だろう？」との思いがありました。千歳市は日本防衛の最前線という特殊性を持ち、基地の維持と市の運営は不可分の関係であることで疑問が解消した。基地の存続維持と住民の生活環境の改善維持は千歳市にとって優先課題だったのであろう。

市域の被災は基地の活動や存続にもかかわってくることから、共同の防災訓練の実施は両者にとって有益だったのであろう。

この施設の運営面での工夫として、屋内訓練施設の目的を持っている場所が屋内スポーツに利用されたり、屋外の防災訓練広場が屋外スポーツに提供されていることは、単一目的でスタートした施設の参考になると思われる。

展示コーナーの地震体験、煙避難体験、油火災やコンセントからの発火体験、避難器具体験等は、アミューズメント的側面があり子供たちに災害予防や防災意識を自覚させる重要な機会になると思います。

このような災害体験施設を持たない本市としては、自主防災組織単位で、地域に起こりうる災害の認識と対処について、いかに精度を上げていくかが重要になってきます。

広範な市域を持っている本市は地域によって想定される災害が異なるので、自主防災組織単位の災害想定策定が早急に望まれる。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

この公共施設は、新たなウィンタースポーツを楽しむ機会を提供するとともに、国際的な大会をはじめとした各種大会の開催や合宿の誘致、さらには体験型の観光などにも活用することにより、スポーツの普及振興、地域経済の活性化等を目的とすると謳っている。これはまさに本市が推進している（仮称）村上市スケートパーク事業と相似的に重なるものです。

本市施設の運用・活用面での検討は大いに成されるであろうことから、その点は他に譲り、施設面で取り組むべき方向性を提案したい。

それは、「地球にやさしい」施設として、太陽光発電や風力発電、地中熱ヒートポンプ設備やペレットストーブ暖房の実証施設として運用し、運用による経験値を取得するとともに、「地球にやさしい」施設であることを打ち出せるメリットが期待できる。一考の価値があると思うものです。

【土曜授業推進事業（北海道登別市）】

文部科学省は、土曜日において豊かな教育環境を提供し、成長を支えるため、学校における授業や、地域における様々な学習、文化スポーツ、体験活動等の機会の充実に取り組むことを狙いとして、平成 25 年 11 月 29 日に学校教育法施行規則の一部を改正し公布・施行した。以来、4 年超になろうとするも本市での土曜授業への動きは見られない。一週 5 日制が定着してから長い年月がたっていますが、一週 6 日だった頃を知らない世代が多くなった今日、何故土曜日にまで学校に登校して勉強するのかという素朴な疑問に、的確な答えを準備しなければならないこととなろう。このようなことから、設置者である本市教育委員会が明確な目的と確かな指針を示し、丁寧な説明と徹底した周知に数年の準備が余儀なくされると思われる。

視察先の登別市においては、そのねらいを 学校は、地域・家庭と連携して、土曜日の子供の教育環境を充実させる。土曜授業が平日の連続した学習環境の向上につながるように位置付ける。平日の授業時数を削減し、学校生活に余裕を持たせる。としているが、本市においては、その実施の是非につき、第一歩から検討を始めなければならない問題である。

小杉武仁委員

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

村上市においても洪水ハザードマップや、土砂災害危険区域図などの作成及び配布等を実施して市民に対しての防災意識の向上を図っていますが、日常の生活では具体的な災害への知識や防災への取り組みが不足していると感じるところです。そこで、千歳市の『防災学習交流センターそなえーる』へ伺わせていただき、市で取り組む防災事業の効果などについて担当者から丁寧にご説明をいただきました。

千歳市防災学習交流センターでは、市民自主防災組織・ボランティア組織・防災関係機関が相互に連携し、防災学習や防災訓練等を頻繁に実施することで、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに、市民協働の理解を深めることを目的とする施設となっています。

また、施設は災害時に災害対策の拠点や避難施設としても使用されますが、施設整備事業は

平成 18 年度から 22 年度に実施され、総事業費は約 21 億円で施設の管理運営は市の直轄運営となり、勤務体制は 8 名だとのことでした。

千歳市は東日本大震災以降、市民の防災意識も高まっており、安全・防災を重点施策の一つに掲げており、この防災学習センターを拠点として災害の知識を学ぶだけではなく、体験を通して災害が発生した際の備えや行動を学び、防災事業に力を入れて取り組んでいるとのことでした。

学校の授業としても、災害を『学ぶ・体験する・備える』をテーマに、様々な災害の疑似体験をしながら防災に関する知識や災害発生時において対処すべき行動を子どもたちも学ぶ施設ですが、施設の最大の特徴は、体験できる設備が整っていることです。実際に地震体験コーナー・煙避難コーナー・避難はしご・脱出シュート等を体験しましたが、地震体験コーナーでは、実際に起こった東日本大震災や熊本地震と同じ条件で 3 次元の揺れを体験して震災の恐ろしさを振り返っておりました。煙避難コーナーでは、煙が充満した部屋から避難する際に取るべき行動を学ばせていただきましたが、それぞれの体験を通して防災学習交流センターが、地域防災の中核を担っていることを実感してまいりました。

村上市でも防災行政の一環として、様々な取り組みで市民に対しての防災意識の向上を図っていますが、市民が防災意識を持ち続ける上で、疑似体験をなど通じての啓発活動や防災訓練を行うことも有効な手段であると認識しましたが、実際に施設で、煙の充満する建物での避難や、地震の体験もさせていただき、知識だけでは危険の迫った状況で道具の扱いや避難などを冷静に行うことは困難であるとも感じた次第です。災害への対応には事前の体験に基づく訓練も重要であると考えますし、平常時の住民同士の情報共有や意見交換を行い災害時の対処法を日頃から意識していく取り組みは重要であろうと思いますが、防災施設整備には多額の費用もかかるため、村上市では新規で導入するのは困難かもしれませんが、既存の施設を活用して、万が一の発災時に自らの命を確保するための知識を身につけていただく防災学習の実施等は、重要課題と捉えてまいりました。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

日本国内ではスポーツ人口も少ないと言われるカーリングの専用施設 札幌市の『どうぎんカーリングスタジアム』に伺わせていただきました。

2012 年にオープンしたカーリング専用施設となりますが、敷地面積約 5200 m²延べ床面積約 3300 m²鉄筋コンクリート造 2 階建て、駐車場 50 台車いす利用者用 1 台 観客席の固定席 208 席 車いす席 16 席カーリングシート 5 シート(競技が行われるレーン)総事業費は約 17 億 5 千万円となり、そのうち建設費が約 14 億 5 千万円で、全国で初めて通年利用できるカーリング場として建設されました。北海道産材のカラマツ材や札幌軟石も使用されたバリアフリー構造となり、太陽光発電設備、地中熱ヒートポンプ、ペレットストーブなどの設置がされ環境面への配慮もなされておりました。

施設は一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団が札幌市より指定管理れていて、9 名で管理

運営されており、その事務局がセンター内に置かれていましたが、カーリング場では毎朝オープン前の2時間をかけてリンク整備を行い、表面を削り平らにしてからストーンが滑るように細かい突起がある表面を作るそうで、整備技術においても管理者として技術者の育成もご苦労もうかがえました。

北海道でのカーリングスポーツは、アイスリンクなどのスケート施設等で行われていましたが、長野オリンピックからカーリングが正式競技となり、通年カーリング競技施設の建設要望を受けて進められたとのことでしたが、札幌市ではカーリング普及に力を入れており、地域の方々や観光で来られた方などに対してもカーリング体験を毎日実施されており、初めてカーリングを行う場合でもケガなく安心してプレー出来るよう、カーリング協会の方から指導を受け実際にリンクでカーリングが出来るシステムとなっていました。その取り組みの成果も得られたのだろうが、開設以降利用者も年々増加傾向にあり、年間7万人を超える利用者がいるようで、現在は稼働率も90%となり週末や祭日では100%を実現できているとの事でしたので地域のスポーツ振興では大いに貢献している施設と感じました。

全国初の通年型専用施設ということもあり、オープン以来カーリングの国際大会も開催されており、カーリングの聖地としてウインタースポーツを楽しむ機会を提供するとともに、国際大会を始めとした各種大会の誘致活動を、協会と行政が連携して継続的に進めているとのことでした。世界大会規模の誘致はもちろんです、カーリング合宿誘致やカーリング競技の振興、ジュニアアスリートの育成などにも全力で取り組んでいるとのことには関係者皆様の情熱が伝わってまいりました。私どもも実際にカーリングの体験をさせていただきましたが、テレビを通してのイメージしかない私たちにとって想像を遥かに超えるカーリングスポーツの難しさを体験させていただきました。

日本国内ではスポーツ人口も少ないと言われるカーリングの専用施設 札幌市の『どうぎんカーリングスタジアム』に伺わせていただきました。

2012年にオープンしたカーリング専用施設となりますが、敷地面積約5200㎡延べ床面積約3300㎡鉄筋コンクリート造2階建て、駐車場50台車いす利用者用1台 観客席の固定席208席 車いす席16席カーリングシート5シート(競技が行われるレーン)総事業費は約17億5千万円となり、そのうち建設費が約14億5千万円で、全国で初めて通年利用できるカーリング場として建設されました。北海道産材のカラマツ材や札幌軟石も使用されたバリアフリー構造となり、太陽光発電設備、地中熱ヒートポンプ、ペレットストーブなどの設置がされ環境面への配慮もなされておりました。

施設は一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団が札幌市より指定管理者として事業受託されており、9名で管理運営されており、その事務局がセンター内に置かれていましたが、カーリング場では毎朝オープン前の2時間をかけてリンク整備を行い、表面を削り平らにしてからストーンが滑るように細かい突起がある表面を作るそうで、整備技術においても管理者として技術者の育成もご苦労もうかがえました。

北海道でのカーリングスポーツは、アイスリンクなどのスケート施設等で行われていたが、長野オリンピックからカーリングが正式競技となり、通年カーリング競技施設の建設要望を受けて進められたとのことでしたが、札幌市ではカーリング普及に力を入れており、地域の方々や観光で来られた方などに対してもカーリング体験を毎日実施されており、初めてカーリングを行う場合でもケガなく安心してプレー出来るよう、カーリング協会の方から指導を受け実際にリンクでカーリングが出来るシステムとなっていました。その取り組みの成果も得られたのだろうが、開設以降利用者も年々増加傾向にあり、年間 7 万人を超える利用者があるようで、現在は稼働率も 90%となり週末や祭日では 100%を実現できているとの事でしたので地域のスポーツ振興では大いに貢献している施設と感じました。

全国初の通年型専用施設ということもあり、オープン以来カーリングの国際大会も開催されており、カーリングの聖地としてウインタースポーツを楽しむ機会を提供するとともに、国際大会を始めとした各種大会の誘致活動を、協会と行政が連携して継続的に進めているとのことでした。世界大会規模の誘致はもちろんですが、カーリング合宿誘致やカーリング競技の振興、ジュニアアスリートの育成などにも全力で取り組んでいるとのことには関係者皆様の情熱が伝わってまいりました。私どもも実際にカーリングの体験をさせていただきましたが、テレビを通してのイメージしかない私たちにとって想像を遥かに超えるカーリングスポーツの難しさを体験させていただきました。

初心者カーリング教室や子どもたちに無料体験会なども開催されているようで、子どもたちの教育や地域の皆様の健康促進に活用されている施設と感じてまいりましたが、観る楽しみも充実されており、一般客の観戦は 2 階で可能となり、売店なども設置されてガラス越しにリンクを見下ろしたり、モニターで観戦したり出来るようになっており、身近にカーリング選手の声や氷上をストーンが滑る音を聞けるのは全国でもここだけとのことでしたが、確かに迫力も感じましたし、マイナースポーツと思っていたカーリング競技が身近に感じられるような気がしてまいりました。

全国的にも珍しいスポーツ施設の運営状況を学ばせていただき、村上市でも進められているオリンピック正式種目となったスケートボード競技や施設も含めたスポーツの普及振興、近い将来オリンピックで選手として活躍する村上市の子どもたちが誕生に向けての具体的な運営方法の検討課題を感じると同時に、地域経済の活性化に役立ててまいりたいと捉えてまいりました。

【土曜授業推進事業（北海道登別市）】

土曜授業とは、各学校の教育課程の実施にあたり、これまで休みとされていた土曜日においても授業を実施するものですが、文部科学省では平成 25 年より、学校・家庭・地域が連携し、役割分担をしながら学校における多様な学習や体験活動の充実策として、土曜日に授業が行えるよう規則を改正し、土曜日の教育活動推進プランが立ち上げたものです。

中でも、学校教育法施行規則の改正において、学校の設置者である市町村などの判断で土曜

日に授業を実施することが可能になり、全国の自治体でも研究を進めているところが多くなっています。

登別市では平成 26 年から北海道の土曜授業推進事業の指定を受け、市内の全小中学校で土曜授業を実施することにしたそうですが、子どもたちの確かな学力、豊かな心、健やかな体、などの『生きる力』を育むことを目指し、子どもたちを家庭や地域ぐるみで育てることを最大の目的として実施しているとのことでした。しかし、土曜日を有意義に過ごせていない子どもも見受けられ、保護者と子どもたちへのアンケート結果では、保護者は 30%、子どもは 60% も土曜授業に否定的という結果が出ているとのことでした。否定的な意見の内容としては、部活動スケジュールや家族との時間を過ごしたいなどの意見が多いようで、実施に至るまでも地域全体の理解が得られるよう、説明が必要なのかもしれないとも感じてきました。

村上市においても子どもたちにはこれまで以上に豊かな教育環境を提供しながら、地域の伝統文化・歴史・自然など、地域の素晴らしさに十分ふれることができる取り組みが必要かとも思いますが、村上市ではまちづくり協議会の皆様方が、各地区で子どもたちにも多くの教育活動をしてくださっております。地域によっては温度差があるのも現実で、改善も含めて地域の皆さんと共に地域の事情に応じた学校運営と教育ができるよう、更に研究していく必要もあるのではと捉えております。

一般的には学力向上などのために、土曜授業が実施されたと受け止められがちですが、文科省が示した方針は『学校における授業や地域における多様な学習、文化やスポーツ、体験活動等の機会』など、土曜日ならではの教育活動の機会を子どもたちに提供することが目標となりますが、現実的には小中学校の授業時間数のやりくりで苦労していることも事実であり、授業時間の確保が大きな問題となっています。また、学力向上は依然として大きな課題であり、全国でも今後土曜授業の実施校が増えてくるかどうか、注目されるところであり、村上市でも学校統合に合わせて研究していく必要もあるのかとも感じました。

子どもたちがふるさと村上に自信と誇りをもち、未来を担う人材として逞しく成長することができるよう、地域の特性を生かした豊かな教育活動を展開するとともに、地域・家庭・学校が連携を深め、子供たちの豊かな学びの機会とする観点を大切にしていき、ふるさと村상을愛する心を育て、個に応じたきめ細やかな指導の充実ができるよう、今後も研究してまいります。

木村貞雄委員

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

千歳市は市街地を囲むような形で自衛隊の駐屯地、基地があり、市街地の円周部は戦車が頻繁に通行している。奥には北海道大演習場がある。そのようなことから、施設を建設するための財源が防衛省の高率な補助事業でよかったと思う。

戦車が通行する公道は、一部宅地を通ることから沿線住民から騒音振動の被害があったが、平成 14 年度に新たな国の補助事業（まちづくり構想策定支援事業）が創設され、経路沿道の課題解決を図るとともに、防災学習施設の整備を行うこととし、平成 17 年 12 月に補助事業

として採択された。

「そなえーる」には災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をテーマに防災意識を高めてもらうものである。

本市においては、財源が大きな課題である。

立地条件的に大きな差があるのではと思う。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

カーリングスタジアムは日本選手権やオリンピックの大会を目的とした施設ではあるが、カーリングの普及振興に関する取組みで結果を出していると思います。

指定管理ではあるが、札幌市の事業では初心者向けのカーリング技術指導、一般開放時に無料で指導を実施。

施設管理者の事業では初心者から上級者までレベルに応じたカーリング教室の開催。また、観光客向けのカーリング技術指導（体験会）の実施。

そのようなことから、利用状況が非常に高く、子どもから高齢者までできることから、一般市民に人気のある施設であると思う。大会等が多くなると、一般の方が利用できないことから、大会等の回数が課題であると思います。

本市の可能性は、オリンピック会場等の問題点があるが、今、本市で計画中のスケートパーク建設は17億と、同じような金額の規模であるが、一般の人の利用状況は低いのではないかと思います。

【土曜授業推進事業（北海道登別市）】

最初に土曜授業を始めたのは北海道からの誘いがあったとのことで条件的に恵まれたのかと思います。

土曜日の午前中に実施とのことであるが、最初の課題はやはり教職員の勤務の振替であったと思います。

学力向上だけでなく、道徳や短縄・長縄大会、親子体力測定、農園活動や収穫祭、地域合同の清掃等、各種の体験ができる。また、土曜授業とあわせてコミュニティスクールがあり、その中で学校運営協議会が中心となり、学校や支援地域ボランティア等と上手く連携しているのが非常に良いと思います。

本市の可能性については、教育委員会、学校教職員の理解があれば出来ると思います。その中で教職員の人数に余裕がないと振替がうまくいくのか心配な部分があります。

稲葉久美子委員

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

千歳市の地形は東西に長い風は南北に吹くところから滑走路はすべて南北に延長という市である。自衛隊の基地が一か所、駐屯地が二か所、奥には大演習場など広大な自衛隊施設という特殊な地域である。住んでいる住民は自衛隊の関係者であることから若い世代が多いとい

う事も特徴の一つでもある。

住んでいる住民からは装甲車両や戦車の騒音や振動による苦情や被害などが寄せられていた。市として騒音などの課題解決を図るために、道路整備など生活環境の改善に努めたが、一層の改善が必要だった。平成14年度に防衛施設周辺地域の発展に貢献しようとする新たな国の高額補助制度が創設されたことから住民からの課題解決を「防災学習交流施設」の整備を要望し、自衛隊施設と共存したまちづくりを進めることとした。21億円の総事業費で75%が国の補助である。

交流センターの体験コーナーにおいて、煙避難体験コーナーは初めて体験しました。避難器具も大切だと思いましたが、生活圏で体験し、学習する場所があるという事はとても大切なことと思います。

村上市の防災訓練や避難訓練をみても町内ごとに取り組み方が違い、捉え方も違って当然のような訓練そのものです。

防災、避難訓練と学習の拠点をづくり指導者を置かれる施設が必要と感じました。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

冬の札幌のイメージで観光、冬のオリンピック、雪まつり、スケートやスキーがあっても当然のごとく、湿度の少ない札幌でカーリングを体験させてもらいました。稼働率が高く、指定管理者制度でも採算が合うように努力している。職員がカーリング人口の増加に努力していることが伝わってきました。

カーリング体験はスポーツそのものの体験で上手くできなかつたけど楽しかった。

村上市のスケートパーク、本気でスケートボード人口を増やすことと、大会、練習会場として使用されるように努力してほしいと思いました。

スケートボードはできないけど会場にはウォーキングにでも参加できるようにしたい、出入り人口が多くなるように頑張っていきたい。

【土曜授業推進事業（北海道登別市）】

北海道の中でも比較的温暖な地域として、また地獄谷温泉にイメージされる登別は観光客のそれもアジアの韓国、中国の若者が大きな声で話をしながら歩いている情景は異様な情景とさえ思われたが、他国の若者が元気に楽しんでいる旅行は見ていてもほほえましくうれしい情景であった。

土曜授業は学校だけに頼りがちな一面を、地域の住民が率先して教育していこうとしている。教育は学校教育だけでないことも承知しているが、遅れている子どもたちに手を貸すことも含め、学校と協力して地域の問題、社会勉強もできている。

長期の休み（夏休み）でも週3回くらいを学習、教育サポートする学習支援は放課後にも実施されている。地域での〇〇先生式の勉強会も色々な分野で行われ退職教員などの活躍の場にもなっている。

教育は学力をつけることも大切である。中学3年生の部活後の受験勉強にも力を注いでいる。地域と学校と一体になって年間計画を立てて行っている。

人口は村上市より少ないが海外に開けていることは、観光地としての取り組みも大きい。大きな資源を有効に利用されている。

大滝国吉委員

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

千歳市には自衛隊基地が三方を取り囲むように存在している。一部住宅地の公道を戦車が通行することから、騒音対策など沿線地域の生活環境の改善を求めてきたことから、市の総合計画で位置付けている、総合的な防災対策の推進や自主防災組織の充実などの観点から、住民要望や住民懇談会での議論を踏まえて防災学習交流施設も整備を行うこととし、当時の防衛施設庁に事業採択の要望活動を行い、平成17年12月に正式に防衛省所管生活安定事業で採択され、防衛施設と共存した災害に強いまちづくりを進めることとし、国庫補助率75%で、残り25%は、起債75%、市債25%で建設されました。

この施設では、防災意識を高めるため、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火、救出等の防災訓練、救急救命率向上のための救急講習会、防災関係の講座やイベントなどを開催しており、実際に地震体験コーナー、煙避難コーナー、避難はしご、シュート体験などもでき、開設から利用者数は30万人を突破しておりました。

近年全国各地で奮発している災害を教訓に、市民や市内の小中学生には災害から自分の身を守る自助や共助、公助などについて防災学習や災害模擬体験など通じて学んでいただき防災力の向上を一層高めるとともに、展示施設、見学施設の利用のみでなく、防災学習や防災訓練などに多くの方に参加していただくとともに、防災面以外でも様々な分野で活用できるよう施設運営を工夫していくつもりです。また、ハード面で今後、体験展示設備等の更新に多額の経費が掛かることも予想されそうです。

本市としても、このような施設は必要であるが多額の経費が掛かることから、現在行っている防災訓練を通じて、一層災害に対する意識を高めていただくとともに、消防署や消防団、自主防災会の連携による災害対策の取組みを図りながら、市民が安心して生活できる環境づくりに努めなければなりません。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

長野オリンピックからカーリングが正式競技となり、通年カーリング競技施設の要望を受け、総事業費17億5千万円で全国で初めて通年利用できるカーリング場として建設されました。

札幌市では施設に指導員を配置して初心者向けの技術指導や一般開放時に無料で技術指導を実施して普及活動に取り組んでおり、また、施設管理者では初心者から上級者まで、レベルに応じた教室を開催し、競技力の向上を図る事業や、観光客などの団体向けのカーリング体験教室も実施していました。

このような取り組みの成果もあって、開設以降利用者も増加傾向にあって、現在稼働率は90%となり、週末や祭日は100%になるそうです。

カーリングの聖地として、国際大会をはじめとした各種大会を協会と行政が連携して積極的に誘致活動しており、また、カーリング競技の振興、ジュニアアスリートの育成などにも取り組んでおられました。

本市でも、スケートパーク建設に向けて準備を進めています。全国的にも珍しいスポーツ施設ですが、市民のみならずから注目を浴びるような施設になるよう取り組まなければなりません。

【土曜授業推進事業（北海道登別市）】

登別市では、これまで学校支援地域本部事業などにより、土曜日の豊かな教育環境の充実を目指した取り組みをしてきたが、土曜日に実施する授業も教育課程上の時間として位置づけられたことから、平成26年度から北海道の「土曜授業推進事業」の指定を受け、市内全小中学校で実施したそうです。

地域、家庭と連携して、土曜日の子どもの教育環境を充実させること、土曜授業が平日の連続した学習環境の向上につながるよう位置づけること、平日の授業時間を削減し学校生活に余裕をもたせるなどの目的に、教育課程に位置付けられた授業、開かれた学校づくりに留意し地域や家庭と連携できる授業、教職員の勤務の振替を確実にを行うことを条件に実施していた。

地域行事や社会教育団体、スポーツ団体などの事業に配慮した日程を設定し、教育委員会では土曜授業の意義を保護者や地域に開発し、登下校の安全確保のために地域の協力を得ながら実施していました。授業の内容はふだんの教科指導のほかに家庭でも実施してほしいことや、地域の方を講師に招いての内容を設定して展開していました。

しかし、部活動や家庭との時間もほしいなどの意見もあり、土曜授業に否定的な意見もあるそうです。

本市では、各学校でいろいろな活動の中で地域の伝統文化を知る授業や地域の行事に参加したりして活動しています。子ども達がそれぞれの地域でのびのびと健やかに成長していけるよう努力していかなければなりません。

三田敏秋委員

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

千歳市防災学習交流センター「そなえ～る」で研修をさせていただき、大変立派な施設でこの施設建設の背景には、千歳市が自衛隊の町であり、イデオロギーは別として、自衛隊と市長との協議が成り立っているように感じたその結果として、防衛省の補助金が手厚く、手当されているものと感じた。この施設「そなえ～る」もそのようなことから建設を見たもので大変立派な施設であり、災害時は拠点として避難施設として利用されるとのこと、また市民・子供たちが身近に防災学習や体験を学ぶ施設であり、真に災害時に「そなえ～る」施設であると感じ

ました。このような体験型を含む施設を本市で建設することは運営を含め難しいと感じた。

現在、本市では、自主防災組織が市全体のカバー率 82.7%と積極的に取組みを進めているが広大な本市において、様々な災害から市民や生命を守る、市民一人一人の行動マニュアルを早急に策定する必要があると感じた。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

札幌市の「どうぎんカーリングスタジアム」を研修して、カーリング競技はオリンピックの正式種目としてオリンピックでテレビで見て初めて知ったスポーツで実際に競技施設を視察するのも初めてであり、私どもも体験できるということで専門のコーチの指導で体験から研修するでは、大きな違いで委員一同、一時童心に帰り、他の人の姿に腹をかかえて笑いこけていました。この施設もオリンピックの正式種目となったことでの施設建設ということで指定管理で運営がなされており、稼働率も 90%を超えておるとのことでしたが競技の特殊性から、一度に大勢の利用とはならず、運営面からはかなりの経費負担はあるとのことでしたが、大きな大会の誘致や市民へのカーリング教室、子供たちへの無料での体験教室、観光客向けの体験等、スタッフの皆様が非常に前向きに施設運営に努めていることに感心してまいりました。何よりも市民の理解、そして周知されているものと思い、世界にはばたくアスリートが輩出されることを楽しみに研修させていただきました。また、同施設において国際大会やオリンピック出場選手との出会いを私たちに大きな感動を与えてくれました。

本市でもメダリスト平野歩夢選手との聖地としてスケートボード施設の建設が計画されていますが、市民が集える施設、世界にはばたくアスリートの輩出、国際大会等の誘致によるインバウンドや観光にも寄与できる施設になるよう望む。

【土曜授業推進事業（北海道登別市）】

登別市では文科省の土曜授業推進事業の指定を受け、この取組みを行ったとのことであり、学力の向上や道德教育での向上等一定の成果はあったとのことでした。本市においても各地域によって温度差はあるように思うが各学校において、地域の方々との関わりにおいての学校行事、体験学習等（主に道德教育）が行われており、これらを基にグレードを上げていくことが必要であると考え。課題としては、保護者、子供たちの意識の向上、教育ボランティアの確保、現場教員の理解度、地域の方々の応援団等を基に子供たちに無理のない教育を望む。

佐藤重陽委員

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

「災害を学び、災害を体験し、災害に備える」を学習するための拠点施設としての交流センターである。とても良い施設であるが、自衛隊駐屯地の受入れ市として防衛予算を取り込み建設したものであり、当村上市に於いて建設を考えるには理解が得難い。当市の中で同等の施設整備を考えるなら、市消防本部施設の整備・拡充を検討すべきと考える。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

オリンピック種目の施設整備を目指す村上市として、公共施設として全国で初めての通年型カーリング専用施設を設置した札幌市の現地調査を行った。市民のカーリングに対する理解が十分醸成され、子どもから高齢の方までカーリングを楽しんでいる。施設の稼働率は90数パーセントと高い数字が示され、施設の利活用の高さがうかがえた。ポイントの一つは誰もが楽しめるスポーツであった。2つには憧れのオリンピック選手など世界大会の入賞選手が毎日のように練習に来ている。当市で考えている日本海スケートパークがどれほどの市民に理解されるのか、一考の余地があると思う。

【土曜授業推進事業（北海道登別市）】

地域、家庭、学校が連携し地域と共にある学校づくりを進め、土曜日の子どもの教育環境を充実させる。平日の授業時数を削減し、学校生活に余裕を持たせる取り組み。とても参考になったが、当市に於いても、代わる取り組みが種々なされており、特筆すべき事項がなかった。

河村幸雄委員

【防災学習交流センター（北海道千歳市）】

千歳市は自衛隊が市街地の三方を取り囲み、北東に陸上自衛隊、南東に航空自衛隊、南西に北千歳駐屯地が位置する。市街地には装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する。延長約10キロの公道が通るその奥に北海道演習場が結んでいる。

国との関係を最大にもちながら、防災対策の推進や自主防災組織の充実など、市民と行政国が議論を交わしながら防災学習交流施設の整備に努めてきたとのことである。施設をつくりたいとは思えないが、何より災害を体験し学び備えることの大切であることを市民の意識として高めていきたい。

被災後はしばらく市内全域で防災訓練が熱心に行われるが、年数が経つと実施しない地域が多い。村上市においても、災害は比較的少ないまちではあるが、だからこそ、再度、今だからこそ防災意識を高めなければならない。

再強化すべき点として

災害から人が生き残るには、一人ひとりの備えと対応が最も重要（自主防災）

市民（自主防災組織）、ボランティア、行政、防災関係機関との連携強化

防災ハンドブック等による対処方法、避難場所の啓発

総合防災訓練、自主防災組織、防災関係の講座、防災イベントの開催

以上、防災に対する意識の向上、災害から生き残るために学んできた。

【どうぎんカーリングスタジアム（北海道札幌市）】

1980年 北海道長によりカーリングが広まり、長野オリンピック後、札幌市カーリング協会等のご尽力によりカーリングスタジアム誘致へと進んだ。

私としては

カーリングの専用の施設であり、多目的な用途利用でなく市民から広く理解が得られてい

るのか

利用率、愛好者、初心者、観光客という利用内容、あわせてカーリングプロ選手の育成強化経営面、年間560万円の5年間のネーミングライツ、指定管理者による。

以上の3点について視察を通して、(仮称)村上スケートパーク建設へつなげたい思いである。

決してカーリング人口は多いものでなく、学生の部活があるところは1校もないとのこと。普及率を確保するためには子ども向け、小中学校への無料開放などの検討。ジュニアチーム強化チームの立ち上げ、440名のカーリング協会登録、無料の体験会等を繰り返し行って来た。また、応援であったり、見学、観光客向けの対応などに努めてきた。その甲斐があり現在は利用者が多いことによる悩み、札幌市190万都市で唯一の施設であるため90%の稼働率である。村上市においても「過疎債」の利用が可能なのか、また、国際大会の開催や合宿の誘致、体験型の観光の取組みなど運営面での勉強を重ねたい。

【土曜授業推進事業 (北海道登別市)】

文部科学省で平成25年度より学校、家庭、地域が連携し役割分担しながら多様な学習、体験活動の機会の充実の一環として土曜日の授業が行われるように立ち上げた事業である。

その目的は、学力向上だけでなく、子供たちの生活習慣の改善 子どもと教師が関わる時間の補完的な学習 地域、PTA、家庭の理解を深める 補習学習や体験学習への協力などがある。

登別市の土曜授業の効果として一番大切なことは、子どもたちや学校のがんばりの見えにつながっていることであるとのこと。

当市において土曜授業推進について、考えは様々であるが、私は今のままの教育方針で良いのではと思う。各小中学校で家庭や地域のつながり、支え合いが希薄化し、身近な人同士で助け合う機会が減少するなど、社会全体の教育の低下が指摘されているなか、村上市の教育は、地域に誇りをもてる、子ども達に村上の魅力を知ってもらえる、体験、伝統芸能の継承、外部人材による講座や道徳の公開授業、農園活動や収穫祭、地域合同の清掃活動、避難訓練など地域、行政、家庭が連携することの大切さを登別市の視察から再確認出来ました。